

札幌ブロック

ユース強化育成プラン2017

「競争」 → 「協創」 → 「協奏」 する札幌を目指して！

<札幌ブロックの現状>

札幌は北海道他ブロックと比較すると

- ①人口が多い
- ②面積がせまい
- ③人口密度が高い
- ④施設が少ない

という環境条件が見られる。他にも冬季の降雪時期も長く外ピッチでの活動も制限されること、交通機関が発達していることなど異なる面も多く見られる。このような条件をいかに効果的にサッカー育成へとつなげていくことが求められる。

<現状からの脱却>

上記の課題を認識して考えていかなければならないことは、人と情報が多い現状の整理し、風通しの良い環境を構築していく必要が急務である。

札幌ブロックの現状

※他ブロックとの比較

- ①人口が多い ▷ (東京)・横浜・大阪・名古屋の次 (札幌190万+石狩・江別▷220万 ※北海道535万)
- ②面積は狭い ▷ 移動距離は (2時間以内)
- ③人口密度高い (177位/791市)
- ④施設が少ない (複合施設・拠点が理想)

- ①人口多 ▷ 情報も多い
- ②面積小 ▷ 移動が時間が短い
- ③人口密度高 ▷ Face to Face での臨場感 (会議・研修等)
- ④施設少 ▷ 新たに作る・工夫しかない！

「ごちゃごちゃしてる」雑多な環境下にある！

検討事項

1. 組織 (人の関連性) の整備と連動
2. 情報の流れるフレームの構築
3. リーダーの「見える化」
4. 会議・研修等の連結

<アクションプラン>

札幌の現状を把握・理解した上で、

- ①トレセンの充実
- ②指導力向上
- ③環境整備

の3点に着目し、3つの課題を挙げ2017年度は進めていきたい。

①トレセンでは、特に3種2種の体系の整備を今年度進めており、さらに安定したシステムを構築し、数多くの選手にチャンスを与えながら、選手発掘を進めていきたい。

②指導力向上に関して、近年C級を中体連指導者が積極的に取得する姿勢が見られている。この向上心姿勢を4種や2種の指導者とも共有し、上位ライセンスの取得目標も合わさって、選手と指導者が共に成長する自然な雰囲気表現されることを期待する。

③環境整備に関しては、人工芝を含めた芝生グラウンド施設の少なさは以前からの大きな課題として残る。近年旭川や函館に複合施設が作られているが、その5・6倍の人口を有する札幌ブロックとしては、SSAPのような施設がさらに4・5箇所あることで、札幌の強みである「多くの人と情報が集積」が、効果的に活かされ、今後の活性化を急激に促進するはずである。また、道外からの「強豪」チームを招聘し交流戦を含めた本気の大会ができないかを模索したい。

札幌ブロックの「ごちゃごちゃ・雑多」な環境を体系的に整理し、人と情報交流の土壌が構築された先には、札幌独自のサッカー文化が見えてくるはずである。

①トレセンの充実 トレーニングの質の向上を!

- U-13,14,15の札幌地区形態の見直し
- トレセン指導者研修会の増加 (2カ月に1回へ)
 - ▷ 情報の共有・指導力向上
- 道外との交流
 - ▷ U12,15,17年代の「全国Fes」 → 「国際Fes」

②指導力向上

- ライセンス取得・Up (指導者養成)
 - ▷ C級講習の実施回数増加
- 指導者研修の場の設定
 - ▷ B級取得者 +3名/毎年
 - ▷ 講習会・交流会の場の設定 ← サッカーをやる・語る機会の設定
- 指導指針の確認・共有
 - ▷ C級指導教本を徹底共有

③環境整備

- ハード面
 - ▷ 札幌130万 etc) 旭川35万の6倍 (秋田28万の6倍) → 拠点は「5つ」 (「6つ」)
- 道外のチームを札幌へ
 - ▷ U12,15,17年代の「全国Fes」 → 「国際Fes」
 - ▷ スポンサーの確保・コンサドーレ札幌・札幌地区協会との連携・・・
- 札幌の気候
 - ▷ 冬の雪の効果